

令和〇年 〇月 〇日		
下北地域広域行政事務組合		
消防長 〇〇 〇〇 様		
防火管理者		
住 所 <u>むつ市〇〇町〇丁目〇-〇</u>		
電話 <u>〇〇-〇〇〇〇</u>		
氏 名 <u>消防 次郎</u>		
管理権原者		
住 所 <u>むつ市△△町△丁目△-△</u>		
電話 <u>△△-△△△△</u>		
氏 名 <u>株式会社〇〇</u>		
<u>代表取締役 消防 太郎</u>		
防火対象物の所在地	<u>むつ市□□町□丁目□-□</u>	
防火対象物の名称	<u>むつファイヤービル</u>	
工 事 種 別	<u>模様替え工事</u>	
工 事 期 間	<u>令和〇年〇月〇日 ~ 令和〇年〇月〇日 (1ヶ月間)</u>	
工 事 施 行 者	<u>〇〇工務店</u>	現場事務所電話 <u>〇〇-〇〇〇〇</u>
防火対象物の用途 その他必要な事項		
※ 受 付 欄	※ 経 過 欄	

- 備考 1 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とすること。
2 ※印の欄は、記入しないこと。
3 具体的な関係資料等を添付すること。

※これはあくまで作成例です。事業所の実状に即したものとなるよう計画をお願いします。また、事前に消防本部予防課へも相談をお願いします。

1 工事概要

工事日程表	____年____月____日から____年____月____日まで 詳細は 別記	
工事範囲	____階 旧テナント名 _____ 部分 詳細は 別図 新テナント名 _____	
機能に支障を生じる消防用設備等	有 ・ 無	詳細は別紙 1
機能に支障を生じる避難施設等	有 ・ 無	詳細は別紙 2
火気使用設備器具等の使用等	有 ・ 無	詳細は別紙 3
危険物品を取り扱う作業等	有 ・ 無	詳細は別紙 4
工事施工責任	会社名 _____ TEL _____ 現場事務所TEL _____ 工事施工責任者氏名 _____ TEL _____	
消防用設備等担当	会社名 _____ TEL _____ 責任者氏名 _____ 現場事務所TEL _____	
担当	会社名 _____ TEL _____ 責任者氏名 _____ 現場事務所TEL _____	
担当	会社名 _____ TEL _____ 責任者氏名 _____ 現場事務所TEL _____	

2 火災予防上の自主検査

- (1) 火災予防のために行う自主検査は**別表**のとおりとし、毎日終業時に実施する。
- (2) 自主検査の結果、異常が認められたときは、防火管理者及び工事施工責任者に報告し、改善を図る。

3 出火防止対策

- (1) 防火管理者及び工事施工責任者は作業員が火気を使用する場合には、周囲をよく点検し、必要な指示を与える。
- (2) 工事施工責任者は、作業の開始前に当日の作業内容について防火管理者に報告し、必要な指示を受ける。
- (3) 喫煙をする場合は、____階(場所) _____の喫煙所で行う。
なお、喫煙所には、その旨を掲示する。
- (4) 毎日作業終了後に吸殻を集め、指定された不燃性容器に入れて処理を行う。
- (5) 喫煙所周囲には、可燃物等を放置しない。

4 放火防止対策

- (1) 建物の外周部及び階段等には、可燃性の工事用資材又は梱包材等は置かないようにする。やむを得ず置く場合は整理整頓し難燃性シート等で覆い保管する。
- (2) 防火管理者又は工事施工責任者は、作業終了後に施錠を最終的に確認する。
- (3) 工事部分等への出入りをチェックし、工事関係者以外の者の工事部分等への立入りは禁止とする。
- (4) 工事部分等の巡回警備を行う。

5 延焼拡大防止

- (1) 防火戸、防火シャッターの周囲には、延焼媒体となる可燃物や開閉障害となる物品を放置しない。
- (2) 工事中は、作業のため必要がある場合を除き、防火戸、防火シャッターは努めて閉鎖する。

6 相互連絡体制等

- (1) 防火管理者は、火災予防上必要な事項について、必要に応じて、工事施工責任者等に指導、監督を行う。
- (2) 工事施工責任者は、工事の開始・終了の報告、溶接・溶断作業の事前報告、危険物品の持込み・使用の事前報告を防火管理者に行う。
- (3) 工事部分又は使用している部分から火災が発生した場合は、相互に連絡をとる。

7 地震対策

- (1) 地震による被害を防止するため次の予防措置を実施する。
 - ア 工事用資器材等の転倒防止措置
 - イ 工事用足場、資材等の落下、飛散防止措置
 - ウ 火気使用設備器具等の点検と安全措置
 - エ 危険物品の転倒、飛散防止措置
- (2) 地震発生時には次の事項を実施する。
 - ア 地震発生直後は、身の安全を守ることを第一とする。
 - イ 工事関係者は、揺れがおさまったら、直近の火気使用設備器具等の元栓、器具栓の閉止又は電源遮断を行う。
 - ウ 工事施工責任者は、揺れがおさまったら、工事部分等を点検、確認し、被害状況を防火管理者に報告する。
 - エ 被害があった場合は、応急措置を行い、状況によっては工事を中止する。
 - オ 火気使用設備器具等は、安全を確認した後に使用する。

(3) 警戒宣言が発せられた場合には(1)の予防措置に加え、次の事項を実施する。

ア 警戒宣言が発せられた旨を工事関係者に周知する。

イ すべての作業を中止し、工事関係者を帰宅させる。

8 自衛消防組織

(1) 火災その他の災害が発生した場合、被害を最小限にとどめるため、工事部分等に自衛消防組織を置く。

(2) 編成表は_____階(場所)_____の見やすいところに掲示する。

担当	氏名(役職等)	任務
自衛消防隊長	_____	1 防火管理者と相互に連絡を取り、工事部分等の自衛消防隊の活動を統括指揮する。
初期消火	_____ _____ _____	1 消火器、屋内消火栓設備等を使用し初期消火する。 2 天井に燃え移ったら初期消火を中止し避難する。
通報連絡	_____ _____ _____	1 自動火災報知設備の発信機を押す。 2 119番に通報する。 3 自衛消防隊長に必要事項を報告する。 4 自衛消防隊員に必要事項を伝達する。 5 到着した消防隊へ情報提供する。
避難誘導	_____ _____ _____	1 避難口を開放し、避難経路図に従い、避難誘導する。 2 避難口、曲がり角などに立って誘導する。 3 最終避難する際に、全ての防火戸及び防火シャッター等を完全に閉鎖し、火災の拡大を防止する。 4 最終避難する際に、逃げ遅れを確認し自衛消防隊長に報告する。

9 消防機関との連絡

(1) 防火管理者は、防火管理の適正を図るため、常に消防機関との連絡を密にし、必要な報告・届出等を行う。

種 別	届 出 等 の 時 期
工事中の消防計画作成（変更）届出	工事中の消防計画を作成又は変更したとき
自衛消防訓練実施の通報	自衛消防訓練を実施するとき
火災とまぎらわしい煙又は火炎を発生のおそれのある行為の届出書	火災とまぎらわしい煙又は火炎を発生のおそれのある行為を行う前

10 避難経路

(1) 工事部分等における避難経路図を作成し、 階（場所） の見やすい場所に掲示する。

(2) 避難経路には、工事用資器材等の物品が置かれなようにし、避難経路を確保する。

(3) 二方向避難を確保する。

11 防火区画

(1) 防火区画については、**別図**のとおり。

(2) 使用している部分と工事部分は完全に区画を行う。

12 訓練及び教育

(1) 防火管理者及び工事施工責任者は、自衛消防隊の消防技術及び工事関係者の防火意思の向上を図るため、次の訓練・教育を行う。

ア 自衛消防隊による消火、通報、避難訓練

イ 工事関係者に対する消防用設備等の設置場所及び使用方法、避難経路等の周知

ウ 工事関係者が火災予防上守るべき事項の周知

(2) 訓練は工事開始前 月 日に自衛消防隊員が参加して行う。

(3) 教育は工事開始前に工事関係者に対し行う。新規の工事関係者に対してはその都度行う。

別紙1 機能に支障を生じる消防用設備等

支障を生じる消防用設備等	場 所	支障を生じる期間
スプリンクラー設備	_____	____月 ____日～ ____月 ____日 ____時 ____分～ ____時 ____分
自動火災報知設備	_____	____月 ____日～ ____月 ____日 ____時 ____分～ ____時 ____分
誘導灯	_____	____月 ____日～ ____月 ____日 ____時 ____分～ ____時 ____分
代 替 措 置 等	1 工事施工責任者等による巡回の回数を増やし、監視体制を強化する。 2 機能に支障を生じる消防用設備等の種類、場所及び期間は必要最低限にする。 3 消防用設備等の機能に支障を生じる工事は、営業時間外に行う。 4 工事施工責任者は、機能に支障を生じる消防用設備等について、防火管理者及び防災センター等に連絡を行う。 5 工事終了後、消防用設備等の正常作動を確認する。 6 工事区域に消火器を増設する。	

別紙2 機能に支障を生じる避難施設等

支障を生じる避難施設等	場 所	支障を生じる期間
避難階段	_____	__月__日～__月__日
避難通路	_____	__月__日～__月__日
非常用進入口	_____	__月__日～__月__日
代替措置等	<ol style="list-style-type: none"> 1 工事部分等及び使用している部分に、避難経路図を掲示する。 2 避難経路の周知を徹底する。 3 できる限り二方向避難を確保する。 4 誘導灯を移設し、表示を変更する。 5 足場外部メッシュコートに非常用進入口の表示をする。 6 防音パネル部分は、外部から開放できる常時閉鎖の開口部を設け、非常用進入口の表示をする。 7 工事施工責任者は、避難階段、避難通路及び非常用進入口付近に障害となる工事用資器材等が置かれていないことを随時確認する。 8 作業時間帯の非常口は瞬時に開放できるようにする。 	

別紙3 火気使用設備器具等の使用等

種 類	数 量	使用場所	使用期間
電気溶接機	___台	_____	___月___日～___月___日
ガス溶断機	___台	_____	___月___日～___月___日
トーチランプ	___台	_____	___月___日～___月___日
高速カッター	___台	_____	___月___日～___月___日
電気サンダー	___台	_____	___月___日～___月___日
管 理 の 方 法 等	<ol style="list-style-type: none"> 1 使用する場合は、事前に防火管理者へ届出をし、承認を受ける。 2 器具等の使用前、使用後の点検を確実に実施する。 3 溶接、溶断作業等を行う場合は、火花が飛散する範囲内の可燃物を除去又は不燃性シート等による遮へいをしてから行う。 4 溶接、溶断作業等を行う場合は、近くに消火器等を配置する。 5 溶接、溶断作業等を行う場合は、監視員を配置する。 6 危険物及び可燃物の周辺では、火気を使用しない。 7 使用の都度搬入し、可燃物のない不燃性床面に設置する。 		

別紙4 危険物品を取り扱う作業

種 類	数 量	使用場所	使用期間
合成樹脂エナメル塗料 (第4類第3石油類)	____L	_____	__月__日～__月__日
合成樹脂塗料用シンナー (第4類第2石油類)	____L	_____	__月__日～__月__日
管 理 の 方 法 等			
	<ol style="list-style-type: none"> 1 危険物品は一時保管場所に保管し、工事現場内には常時保管しない。 2 一時保管場所には不燃性の囲いを設け、施錠するなど管理を徹底する。 3 使用する場合はその都度、使用する量を小出しにする。 4 一時保管場所には、取扱い上の注意事項等及び取扱責任者を明示する。 5 一時保管場所には消火器を設置する。 6 一時保管場所及び使用する場所は、常に整理整頓をする。 7 危険物品の使用中は、火気の使用及び喫煙は禁止する。 8 危険物品等の使用中は、換気を行いながら作業を行う。 9 付近に火気及び火花を発するもの等がないことを確認してから使用する。 10 危険物品を貯蔵し又は取扱う場合は、事前に防火管理者及び工事施工責任者へ届出し、承認を受ける。 		

別表

火災予防上の自主検査

___月

日	検査項目									備考	検査実施者
	終業時の火気の確認	終業時の施錠確認	終業時の吸い殻処理	消火器	屋内消火栓	自動火災報知設備	防火戸の閉鎖障害	防火シャッターの閉鎖障害	避難経路の確保状況		
1											
2											
3											
4											
5											
6											
7											
8											
9											
10											
11											
12											
13											
14											
15											
16											
17											
18											
19											
20											
21											
22											
23											
24											
25											
26											
27											
28											
29											
30											
31											

(凡例) ○…………良 ×…………不備 ⊗…………即時改修